

令和 5 年 2 月 10 日

松阪市議会
議長 山本 芳敬 様

報告 広報広聴委員会
委員長 海住 恒幸

行 政 視 察 報 告 書

標記の件について、下記の通り行政視察を行いましたので、その内容を報告します。

記

1. 視察日程 令和 5 年 2 月 2 日（木）
2. 視察先 三重県四日市市／三重県鳥羽市
3. 広報広聴委員会
4. 参加委員 海住 恒幸(委員長)、米倉 芳周(副委員長)、山本 芳敬、
殿村 峰代、中村 誠、吉川 篤博、小野 建二、森 遥香
5. 報告書作成 森 遥香
6. 報告書提出 委員長 海住 恒幸
7. 視察項目
 - I. 三重県四日市市
 - (1) 四日市市議会広報広聴機能の取り組みについて
受入担当者 西口議事課長、後藤広報広聴係長、早川新平議員、小田あけみ議員
 - II. 三重県鳥羽市
 - (1) 鳥羽市議会広報広聴機能の取り組みについて
受入担当者 木下順一議長、河村孝副議長、山本哲也副委員長
 - III. 全体所感

I. 三重県四日市市 四日市市議会広報広聴機能の取り組みについて

1. 三重県四日市市の概要

四日市市は人口 309,338 人、三重県の北部に位置し、西は鈴鹿山系、東は伊勢湾に面した温暖な地域で、中京工業地帯の代表的な工業都市である。近鉄名古屋線や JR 関西本線などが通ることから、名古屋市への通勤・通学者が多い。中心市街地の近鉄四日市駅周辺にある幅 70m の中央通りは四日市を代表する大通りで、戦後の復興計画で建設された。令和 4 年度当初予算(一般会計)は 1,309 億 2,000 万円。議員定数は 34 人。

■主な地場産業

- ・萬古焼（海蔵地区、橋北地区、羽津地区）
- ・伊勢茶（水沢地区、小山田地区）
- ・日永うちわ（日永地区）
- ・大矢知素麺（大矢知地区）
- ・酒造



▲萬古焼



▲とんてき

■四日市の名物

- ・四日市とんてき - ご当地グルメ。豚のステーキの一種
- ・なが餅 - 1550 年（天文 19 年）以前から東海道沿いで売られていた和菓子
- ・水沢のお茶

2. 四日市市議会の取組み

■四日市市議会基本条例

◎特徴

- ・市民との情報共有
- ・市民参加の推進
- ・議員間討議の活性化

◎新たな取組み

- ・通年議会 - 定例会は年一回、会期は通年
- ・反問権 - 本会議内での質問や委員会内での質疑において、執行部から逆質問が可能
- ・文書質問 - 執行部に対し、文書にて質問を行うことが可能

■広報広聴委員会

◎市議会だよりのリニューアル

- ・表紙に写真を多く配置/市内高校生との紙面づくり(R4.8月号題字を書道部に)
⇒狙い：手に取ってもらいやすい工夫
- ・「よっかいち市議会だより #こども号」を R4.7 月～配布開始
⇒狙い：夏休みの自由研究にしてもらいたい



▲書道部学生が題字協力



▲よっかいち市議会だより #こども号 R4.7月号



◎市議会モニター制度

市議会の運営等に関し市民からの要望や提言等を広聴し、市政に反映するため
H24 年度から公募も実施

【R4 年度の例】

- ・市内 24 地区の市民センターの職員へ依頼し、各地区から選抜（地区枠 36 人）
- ・四日市大学へ推薦のお願い（学生枠 6 人）
- ・一般公募（一般枠 7 人）

【課題】

- ・年齢の偏り、特に 60 代以降が多数
- ・担当部局が対応すべき内容の意見が多い
⇒解決策：議会制度について説明し、議会モニター制度の意義の、理解を推進

■シティミーティングと議会報告会の開催

- ・テーマは各常任委員会で協議して確定し、4 常任委員会ごとに 4 会場で実施

【課題】

- ・参加者の固定化と高齢化
⇒解決策：ショッピングモールで開催

■所管事務調査テーマの募集

H28 年度開始。市民参加を促すため、市民へ「所管事務調査テーマ募集」を開始
集まったものを一覧にし、全議員に共有。HP に進捗情報を掲載、個別解答はしないルール

■R4 年度からの新たな取組

- ・出前型意見交換会「ワイ！ワイ！GIKAI」
→各常任委員会が地域の高校・大学に出向き意見交換会を開催
- ・常任委員会での調査テーマ】

3. 質問

◎市議会モニターについて

問：一般公募人数 10 人程度とあるが、倍率は？

答：H24 年度以降一般公募制を開始、定員を上回る応募はまだない

問：市議会モニター制度周知の為、市議会だより・市 HP・SNS 以外で行なっている広報は？

答：地区市民センターにチラシ設置

問：推薦制度での学生へのアプローチ以外で、若年層へのアプローチ方法は？

答：今のところない

問：市議会モニターから出た意見へのフィードバックは？

答：実際に改善が行われ、解答を市議会だよりに掲載

問：委員会傍聴の実績は？

答：コロナ禍の影響もありほぼ無いが、委員会はインターネット視聴するモニターが多い

問：委員会視聴回数のデータ取りは？

答：昨年度開催後1ヶ月後のデータ→125回、151回。

◎議会報告会、シティミーティングについて

問：議会報告会の運営状況と課題は？

答：少ない時は3人、多い時は7～80人。参加者が右肩下がりは松阪市と同じ。第2部のシティミーティングのテーマがその地域に大に関わる内容だと、参加者が多くなる（例、海辺のまちの防災関係）。参加者の固定化を避けるため、日祭日のショッピングモールで開催を行なっている

問：議会報告会であがった意見に対する解答について

答：休会時に共有し、1ヶ月程度を目処に回答を提示

問：議会報告会の資料は市民にどのように共有、配布しているのか？

答：紙媒体を当日に配布

問：報告会では、開催担当委員会の所管業務のみ説明しているのか？

答：冒頭に議長が全体的なことを説明。他の委員会の事は説明しない

※議会終了後速やかに（おおよそ1週間後程度）開催。意見への回答はなるべく現場で対応するが、所管以外の意見に対しては持ち帰る。2部シティミーティングが白熱する

※運営について

委員会終了後、担当書記が取りまとめを行い、議会終了時にはある程度資料ができている（議会事務局作成）→議会終了時に議員へ内容を確認依頼、速やかな開催に繋がっている

◎SNS

問：SNSへの投稿は議会事務局が案⇒議長承認⇒発信が流れということだが、広報広聴委員から投稿や運営に関して提案が出ている事はあるか？

答：特設公式SNS運営に関しては、議員や広報広聴委員から運営についての提案はない

問：SNSでのリツイートによる情報収集はしているか？

答：現状、一方的な情報発信のみ。フィードバックやコメントでの情報収集は行っていない

◎市議会だより

問：一般質問の掲載は、1つしか掲載できないルールがあるのか？

答：ページの掲載の関係で1つに絞っている

◎その他

問：「議案に対する意見募集」は時間的にタイトではないか？

答：概ね2週間の意見募集期間。一般質問の時期に募集。委員会が始まる前に集まった意見を広報広聴委員会で確認、各常任委員会へ共有

※議員政策研究会が四日市市議会の1番の特色。議員同士会派を越え、有志で問題に取り組む→条例に組み込むために特別委員会の開催に向けて動く。「みんなのスポーツ応援条例」施行（三重とこわか国体開催に合わせ）「防災特別条例」など。やる気のある議員が集まるので、条例施行に対する動きが早い

Ⅱ. 三重県鳥羽市 鳥羽市議会広報広聴機能の取り組みについて

1. 三重県鳥羽市の概要

鳥羽市は人口 17, 525 人、三重県南東部に位置し、志摩半島の北東端にあり、西を伊勢市、南を志摩市と接する。北と東は海に面し、伊勢湾と太平洋を分ける位置にある。気候は温暖で、美しいリアス式海岸が広がっていることから、市域全体が伊勢志摩国立公園に指定されている。世界初の養殖真珠を育んだ海、日本一の海女文化など海に根差した歴史が色濃い。平成 23 年(2011 年)より 6 月定例会を「真珠議会」と位置付け、各議員が真珠製品を身に付けて議会に出席するなどして真珠養殖発祥の地をアピールしている。

令和 4 年度当初予算(一般会計)は 116 億 1, 000 万円。議員定数は 14 人。

■主な地場産業

- ・観光業 - 大規模なホテルから小規模の民宿まで、多くの宿泊施設が立地
- ・水産業 - 養殖業では牡蠣や真珠。海の幸としては伊勢エビ、鮑、海苔など

■鳥羽の名物

- ・てこねずし - すし飯の上に醤油ベースのタレに漬け込んだカツオを載せている
- ・とばーがー - 地元食材を手軽に食べられる創作バーガー。鳥羽市による認定条件は、地元食材を 1 品以上使い、注文をうけてから作ること

2. 鳥羽市議会の取組み

■TOBA ミライトーク

◎旧議会報告会並びに意見報告会

課題：鳥羽市は 46 町内自治会存在、離島やリアス式海岸で集落が点在し、学校区単位での開催が困難

⇒当初市内 18 ケ所で実施したが、市民から「細かく地区を回ってほしい」との要望が多く、H22 年からは倍の 36 ケ所開催、翌 23 年には 37 ケ所開催となり、日本一報告会の多い市議会となった

◎旧体制の限界が…

- ・執行権のない議会に対しての要望が多い
- ・参加者の固定化、若者女性が少ない
- ・地元の動員への負担

※市長の地区懇談会と議会報告会が続き、参加者の動員が地域にとっても負担に。同じ内容を聞き、参加者からの意見も結局両者で同じ内容となり、地元の要望がメイン

⇒以上を経て、H27 年 4 月改選後、1 年間報告会を休会し、あり方を議論

◎新体制「TOBA 未来トーク」誕生

- ・地域課題の共有が目的
- ・議会報告はなく、テーマに沿った意見交換のみ

- ・手上げ方式（依頼があった団体へ議員を派遣）

- ・原則、グループディスカッション

- ・模造紙、付箋等を利用し、議論を可視化

⇒H28 年 9 月、ママ友サークルとの実証実験を実施し、結果を元に 11 月から始動

◎TOBA ミライトークの運営

開催前の派遣議員との打ち合わせが重要！落とし所は何か？課題の共有をすることが狙い
広報広聴委員会副委員長によるヒアリングが肝！

⇒「当日はこれをやってみませんか？」と、丁寧なヒアリングからテーマの抽出、絞り出し

注意点：

議員は話好きが多いので、なるべく喋らない！話を聞き出すことに重きを置く勉強会を行った。議員の話が長くなると、ベルでチーンと鳴らす仕組みを設けた

※フィッシュボード形式を取り入れ

その他運営について：

- ・事務局の関与…申込者との調整、会場調整、委員会開催、当日事務用品等準備、随行、報告書整理

- ・周知方法…議会広報誌、市ホームページ、市玄関等

- ・今後の展望…量から質への転換。ある程度の量も必要。申込者への声掛けを拡大していく

※「議員と話しませんか？」とママ友サークルに声をかけても、なかなか反応をもらえない
「議会カフェ」「議会バル」「議会マルシェ」等、市役所に来庁してもらい、参画型となるような仕掛けを今後考えている

3. 質問

問：広報と広聴どちらに比重を置いているか？また、課題は？

答：広報機能。広聴機能が弱いと感じている。

問：ファシリテーターについて

答：ファシリテーター研修を開催。若手議員中心に議会の活性化をしている。皇學館大学教授に協力を仰ぎ、「ファシリテーター能力が大切」という共通認識を持った。聞く力、声かけ力を今後も研究していく。加茂小学校とワークショップ型のミライトークを行ない、気づく部分が多かった。「自分たちでできること」「行政にお願いしないとできないこと」を書き出し、仕分けをした。ミライトーク開催後、早速子どもたちが自分でできることを実践している。（自然を守るポスター、CM 作成）

未だに「要望を言いたいからミライトークをしたい」という誤った認識を持った団体からの声掛けもあるが、本来の目的を達成するミライトークとなるため、現在も課題研究中

問：TOBA ミライトークの広報方法は？（市 HP や広報誌等以外で）

答：各議員が市民相談に乗った中でミライトーク制度を紹介し、開催に繋げている

問：SNS 運用に関し、各議員や各委員から出ている意見はあるか？

答：LINE は議員提案により開始した。SNS 発信はどうしても事務的なものになっている

問：オンラインでのミライトークの開催はあるか？

答：本年1月、小学生とミライトーク開催時、コロナウィルス濃厚接触者がおり、学校側が持参したタブレットで参加する児童がいた。まだ要望はないが、オンライン開催の設備はある為、今後開催することは可能

問：TOBA ミライトークのトーク内容が、市民に共有されることはあるのか？（トークを行ったグループが希望する場合、市議会だよりなどで共有しているのか？など）

答：開催団体によってはプレスリリースも行っている

問：量から質への転換とは？

答：議会からの声がけも進めていきたい段階。質を上げるには数をこなすことも大切

問：今後はどんな団体から声がけされたいか？

答：中高生、若い女性へと広げていきたい。ハードルを下げるのが目標。現在「女将さん」達との開催が多く、メディアが入る事も多い。女将さんから「あんたらもネクタイしめてビシッとして来なあかんよ！」と言われ、それがイメージとして定着してしまっ、ハードルが上がってしまっている事が課題。第1回はママ友サークルとぎっくばらんな会だったため、そのイメージを押し出したい

問：ミライトークで出た意見が市政に活かされたことは？

答：ゴミ問題、地域クーポン活用など。ミライトークで出た意見が一般質問に取り上げられることが多くなり、実際に反映されている

問：異なる団体同士を合わせた開催は考えているか？

答：今はない。よく似た趣旨の団体はあるが、その団体からの要望がない限り開催はない。

問：ミライトーク開催時期に縛りはあるか？開催要望が殺到したらどうするか？

答：実施期間は6月上旬～3月上旬まで、議会開会中も開催したことがある。緊急性が高い内容には、融通を効かせている。（例：鳥羽一番街のコロナ対応は提言まで持って行った）ワークショップだけでなく、対面式であったり、曜日、時間、会場の雰囲気なども申込者の要望に合わせる。来てほしい議員、来てほしくない議員という要望が出ることもある

問：ヒアリングの段階で、「この課題であれば民間の専門家を呼んだ方が良いのでは？」となったケースは？開催時間はちゃんと守られているか？

答：外部専門家を呼ぶ事はない。ヒアリングの段階で、現状や課題を聞き出していくので、その場合はミライトーク開催前のヒアリング段階で解決させる。1時間半と決まっていたも、大体延長となり2時間を超えている。

Ⅲ. 所 感

■鳥羽市議会では、市民との地域課題の共有を目的に手上げ方式のテーマに沿った意見交換会「TOBA ミライトーク」が開催されている。松阪市議会としても、公聴機能の充実に向け新たな意見交換会の取組みの必要性を痛感しました。

■鳥羽市の視察で、当市議会にとって議会報告会の新しい指針が見出せたと感じた。旧来の議会報告会に対する危機感から、活発な議論の末、「新 TOBA ミライトーク」が生まれ、そして、今も進化している。また、楽しい時間の共有との認識には、共感した。

■自治体議会において「議会改革」という言葉すらなかった１９９０年代。各地で「まちおこし」が盛んだった。市役所や町村役場を訪れると、それぞれの自治体の財政力を含め、さまざまな施策への取り組み姿勢に違いが感じられて面白みを感じられたものだ。しかし、議会に関して言えば、どこに行っても同じで面白くなかった。ところが、今回、四日市市議会と鳥羽市議会に行って感じたことは、どちらにも方法に違いがあることだった。違いがあるということは面白い。それぞれが自分たちの議会を変えようという努力をし、そのことを楽しんでいるということだ。

■四日市議会では報告会の開催を定例議会後一週間で行うなど、スピード感のあるアグレッシブな活動で、「議員政策研究会」などはその中でも最たるものであると思った。議会事務局の人員が圧倒的に多いことはそれらを可能にしている大きな要因であると考ええる。

また、鳥羽市議会では「TOBA ミライトーク」を以前に見学していたが、昨年出生時数が６０という深刻な人口減少の市において未来を切り拓くためにも住民意見をどう引き出すか、そしてそれらを市政に反映させて魅力ある街づくりを展開するかは死活問題であり、我が松阪も同様の課題である。議員力に於いて市民の方々からの意見をどう引き出すかはファシリテーション能力の高さが要求されるが、さらにどう課題解決するかは別問題のため、これらを一つ一つ解決出来るよう力をつけていくことが肝要と考える。

■報告会や公聴会等を形を変え、新しい取り組みを実践しても回数を重ねれば動員数の落ち込みや頂戴するご意見も同じようなものばかりになっているのを見てとれた。本市においてもそういったことが見受けられる、変革を恐れず新たな行動を繰り返し起こすことが大切であると感じた。

■四日市市の先進的な『市議会モニター制度』や『シティ・ミーティング』、そして鳥羽市の『TOBA ミライトーク』は、広聴機能を果たす上で、参考になる取り組みであった。松阪市も市民の声を直接聞く機会を増やしていなければならないと感じた。

■四日市市議会は、公聴部分に重点をおき市民参加のモニター制度や、議会報告をショッピングセンターでの開催や、更には常任委員会での調査テーマを市民より募集するなど広聴機能の工夫を学ぶ事ができた。

■どの自治体も課題は同じで、参画者の固定化や高齢化である。次世代を担っていく現役世代を取り込む為に、今新たなアクションを行わなければ自己満足・一方通行の議会となってしまう。鳥羽市議会の「旧議会報告会からの脱却としてのミライトーク」や、現在思案中の議会カフェ・議会バル・議会マルシェ等のアイディアは松阪市でも是非研究し、形にしていきたい。